

YAYOI

自動壁紙糊付機械

COATAX SHO-55

ゴ-ゴ-

スーパードライブスリッター搭載

取扱説明書

安全のためご使用前に必ずお読み下さい



このたびは、当社壁紙自動糊付機械『COATAX SHO-55』をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に際し、事前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解いただいた上でご使用ください。ご不明な箇所がありましたら、巻末に記載しました当社の連絡先までお問い合わせ願います。

なお、この取扱説明書はいつもお手元に保管され、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

 ヤヨイ化学工業株式会社

お使いになる前に

●本機をご使用になる前に、下記の梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。

COATAX SHO-55 ゴゴゴ

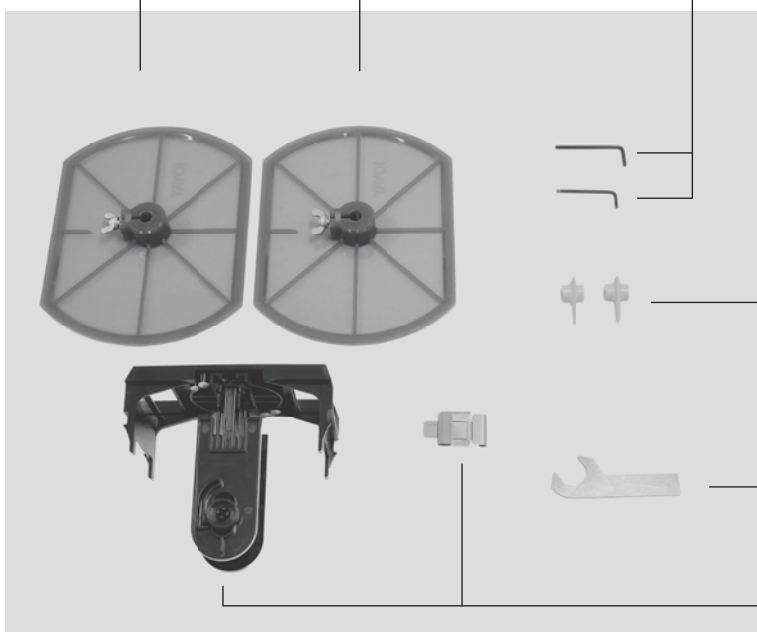
商品番号 401-460

- 1 糊付機械・本体
- 2 スーパードライブスリッター
- 3 コントローラー
- 4 クロス芯棒
- 5 NEWテンションバー
- 6 取扱説明書(本書)・付属品
- 7 保証書

【付属品】

クロス側板
2枚

六角レンチ(3.0mm、2.5mm)



ツメF LG 2ヶ

糊厚調整工具K
(400-977)

カットテープ取り付けキット
“ラククシヨ”(400-702)






【取扱説明書】

目次

1	取扱い上のご注意	4
2	各部の名称	7
3	機械のセット	
	脚・テンションバー	11
	本体・コントローラ	12
	スリッター	13
4	作業準備	
	クロス原反のセット	14
	カットテープのセット	15
	糊の供給・糊厚調整	17
	ツメ位置の調整・裁断幅の調整	18
5	糊付作業手順	
	クロスの通し方	19
	糊付け作業	20
6	コントローラの操作方法	
	操作スイッチ	21
	操作パネル	22
	操作方法 通常糊付画面	23
	詳細糊付画面	24
	残量設定、トータル・補正	25
	履歴確認、エラー表示	26
7	本体部の掃除・手入れ	27
8	機械の調整・点検	29
9	スリッター刃物の交換方法	31
10	故障かな?と思ったら	32
11	別売オプション	34
12	仕様	35

自動壁紙糊付機械をご使用いただくには、正しい取扱いと定期的な保守・点検が不可欠です。本文をよくお読みいただき、十分にご理解された後、糊付作業ならびに保守作業を行ってください。

この取扱説明書では、誤った取扱いをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

-  **警告** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人身事故につながる恐れのある内容を示しています。
-  **注意** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、機械の破損・故障につながる恐れのある内容を示しています。
-  **メモ** …………… これを知っておくと便利という内容を示しています。

警告



プラグを抜け

煙が出ている、変な臭いや異音がある等の異常状態のまま使用すると、火災・感電等の原因となります。すぐにコントローラの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグを抜け

作業終了後は、コントローラの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



分解禁止

コントローラを分解したり、改造したりしないでください。感電・故障等の原因となります。内部の点検・修理は、当社各営業所に依頼してください。



水ぬれ禁止

コントローラに水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障等の原因となります。屋外での使用や機械の洗浄時等は、特にご注意ください。



禁止

電源コードの上に重いものを載せたり、コードが機械の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電等の原因となります。



警告

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線等）、当社各営業所に交換修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電等の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電等の原因となります。



警告

糊付作業中は、ローラーやギヤ等の間に指をはさまないように十分注意してください。



電源OFF

コントローラは機械本体に着脱できるようになっています。着脱の際、必ず先に電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。



外せ

糊付機械を洗浄するときは、コントローラとスリッターを取り外して行ってください。ローラーの間に手を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりする等、思わぬ事故を未然に防ぎます。



外せ

糊付機械を洗浄するときは、オクリダシローラーを取り外して行ってください。ドクターローラーとオクリダシローラーの間に手を巻き込む事故を未然に防ぎます。



スリッター運転中には絶対に刃物に触れないでください。手を切ります。
スリッター停止中も十分注意してください。

警告



スリッターのカッターボックスを分解しないでください。手を切ります。

分解禁止



コントローラの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電等の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

禁止



濡れた手でコントローラの電源プラグを抜き差ししないでください。感電等の原因となります。また、必ずアースをとってご使用ください。

禁止



機械の上に重いものを置かないでください。機械が変形・破損したり、落下してけがの原因となることがあります。

禁止



ぐらついた台の上や傾いた所等、不安定な場所に置かないでください。機械の誤作動や、倒れたりしてけがの原因となることがあります。必ず水平な場所で使用してください。

禁止



脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手を挟む恐れがありますので十分注意して行ってください。

警告



脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロック状態が不十分だと運搬時に脚が開き、足をけがする恐れがあります。ロック状態が悪い場合は、部品交換ないし修理をご用命ください。

警告

注意



精密機械ですから落としたり、ぶつけたり、極端な衝撃を加えないでください。

注意



電圧低下、電圧変動によりコントローラーが正常に作動しない場合がありますのでご注意ください。

注意



コントローラー、スリッターは、本体から取り外して別に運搬してください。運搬中に機械が落下して破損する恐れがあります。機械本体と脚部を同時運搬される際は、機械本体・上下フレームのパチン錠、本体と脚のパチン錠を必ず掛けてください。

ロック



窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所等、異常に温度が高くなる場所や、湿気が多い場所に長時間放置しないでください。機械の変形・故障等の原因となることがあります。

禁止



掃除をするときはワイヤーブラシなど、かたいものでこすらないでください。ローラー等の表面に局部的な力を加えると破損する恐れがあります。

禁止



液晶表示は、使用温度範囲(0~40°C)を超えると表示が見えにくくなることがあります。また、低温(0°C以下)になると表示切替りのレスポンスが遅くなる傾向があります。低温時は予め10分程度、通電後、糊付作業を行ってください。

注意



液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなることがあります。

注意



使用後はローラー、糊タンクは水洗いし、ステータや脚等、糊のついたところは、水を含ませた雑巾等で拭き取った後、乾いた雑巾で乾拭きしてください。洗浄、拭き取りが十分でないと部品の劣化や変色に至る場合があります。

注意



ドクターローラー、糊ローラーの水洗いは厳密に行ってください。乾燥後、薄い糊の皮膜が残っているだけでも、糊付けのムラ、かすれの原因となることがあります。

注意



オクリダシローラー、検尺ローラーに糊がついたときは、必ず雑巾などできれいに拭き取ってください。糊がついた状態で放置するとひび割れることがあります。

注意



機械に糊を入れたまま長時間放置しないでください。特に機械が新品の使いはじめの時期は、必ず使用後に機械を洗浄してください。糊ローラー、ナラシローラー、糊上げローラー、オサエローラー、ドライブローラー、ノリオケ等のアルミ部材が変色(腐食)することがあります。ローラーの変色は高温になるほど進行が早くなりますので、糊を付けたまま自動車に保管する際は、特に気を付けてください。

禁止



注意

経時によりオクリダシローラーや検尺ローラーが変色(黄変等)する場合があります。ローラー間のグリップ力を保持していれば、糊付性能に影響はありません。グリップ力が低下した際は、ピンチ圧を調整したり、場合によってはローラーの交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

本糊付機は、当社ルーアマイルド、ピュアラで6.5～7.5割希釈、アクアマイルドおよびアクアノールで8.0～9.0割希釈の時、均一な糊付ができるよう設計しております。糊の種類、粘性、使用条件等によって、糊付状態にバラツキが発生します。レギュレーターに規定線まで水を入れ希釈することで、弊社が標準に定める溶液が作れます。



注意

糊タンク内に糊を入れたまま一晩放置すると、糊の流動性が悪くなり糊切れを起こす場合があります。ご使用前に糊タンク内の糊をへらで混ぜるか、一旦糊をレギュレーターに戻して再攪拌してください。



注意

製品出荷時、本糊付機の糊厚は、糊ローラーとドクターローラーの間間で左右同じになるように調整しています。しかしながら、壁紙に糊を付けた状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合、糊付き状態を確認しながら、本書P17・P29を参考に調整してください。



注意

コントローラの糊付スピードは最高毎分20mまで設定できます。壁紙や糊の状態によっては高速で糊付した場合、糊付状態も悪くなる場合があります。このような場合、低速でご使用下さい。



注意

コントローラ取付時、底部レバーが本体カバーの穴にしっかりと入っていることを確認して下さい。しっかりと入っている場合、レバーは14～15mm程度移動します。取付が悪いと、動作中にコントローラが外れたり、ギヤが破損したりします。



注意

本体部のコントローラ取付面(軸受カバー2)にシール等を貼付しないでください。本製品は、コントローラからの信号を非接触(コードレス)にて本体へ送信しています。シール貼付により信号伝達が阻害され、読み取り不良が発生させる場合がありますのでご注意ください。



注意

壁紙や接着剤等の材料状況、あるいは高温時、低温時等、ご使用環境の条件によっては、本糊付機の糊付性能、スリッター裁断性能、採寸性能等が十分に発揮できない場合があります。このような場合予め試験使用しご確認された後、本使用してください。



注意

壁紙材料の種類によっては、壁紙を機械にセットした状態で放置すると、気中の湿気により幅方向に伸びるものがあります。このような材料を、スリッター裁断後そのままの状態では、湿気により壁紙が伸び、幅寸法がスリッターの設定から変化するため、切断面に段差が生じ美しい突き付け施工ができない場合があります。このような場合、放置時間を抑えるなど、予めご留意願います。



注意

スリッターでクロススの耳を裁断時、クロススのセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッターのカッター位置を左右同じにセットし、クロスは左右にたるみが出ないよう原反を抑えながら機械に引き込んでください。



注意

スリッターでクロススの耳を裁断する際、クロス原反の巻き状態が悪いものや、つぶれた状態の原反等では、まっすぐ切れない場合や耳の端部がつかまる場合があります。巻きの悪いものは、耳をそろえ直してご使用ください。つぶれた原反のものは、巻き直すと矯正してからご使用ください。



注意

カットテープご使用の際、テープが蛇行、シワになる場合があります。テープはまっすぐに裁断されているものをご使用ください。



注意

脚部を折りたたむ場合は、テープキット“ラクショ”が脚部に干渉しないよう、適切な位置に移動させてください。また、カットテープの巻きが太いと、脚部を折りたたむ際、テープが脚部に干渉することがありますので、予め回転させてください。(P16参照)無理に脚部を折りたたむとテープキットが破損する恐れがあります。



注意

壁紙や接着剤の種類、状況によっては、十分な性能が発揮できない場合があります。このような場合、摩耗した部品の迅速な交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

壁紙材料の種類(巾広の壁紙等)によっては、本糊付機による糊付けやスリッター裁断ができない場合があります。事前に壁紙の巾寸法、有効巾、リピート等をご確認願います。



注意

経時のご使用により本糊付機の構成部品が摩耗し、十分な性能が発揮できない場合、当社営業所までお問い合わせいただき、部品交換ないしオーバーホールをご用命ください。



注意

本糊付機には、予め消耗を想定した部品があります。それらの部品につきましては、保証期間内であっても無償での部品取り替えはできませんので予めご了承ください。



注意

修理が必要な場合、施工現場にて修理するには修理内容に限度があります。厳密に修理するには、一旦当社へ機械を戻し、詳細な点検調整が必要なことを予めご了承ください。



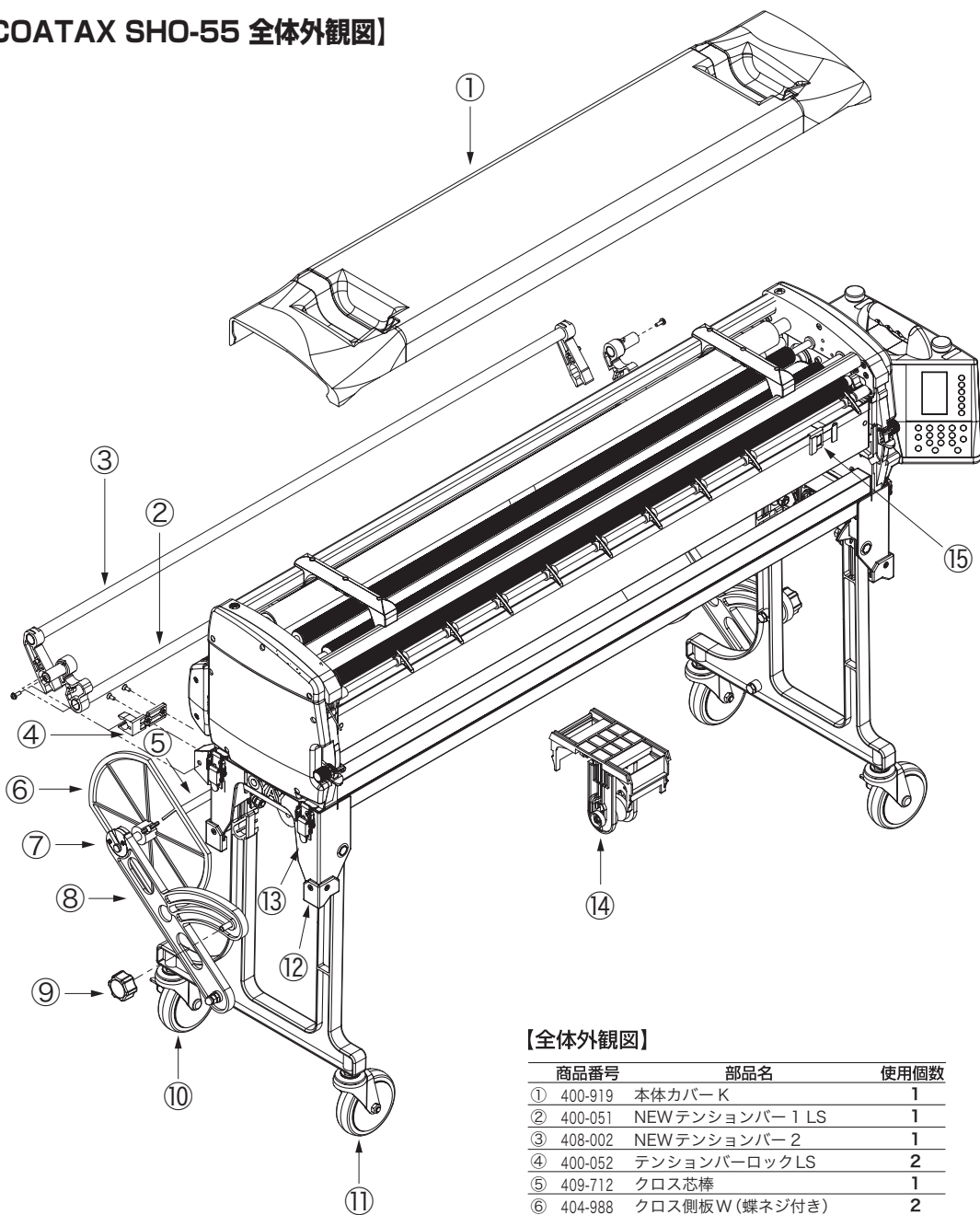
注意

本糊付機をご使用の際は、取扱説明書、保証書をよくお読みいただき、ご理解された上でご使用ください。本機の保証期間は6ヶ月ですが、取扱い等にて問題があった場合、保障できかねる場合がありますので予めご了承ください。

各部の名称

2

【COATAX SHO-55 全体外観図】

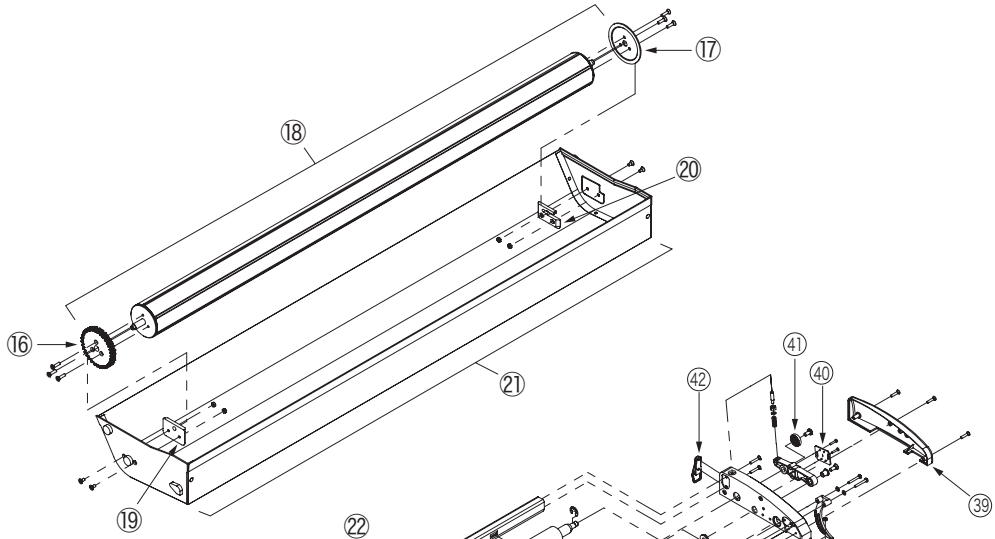


【全体外観図】

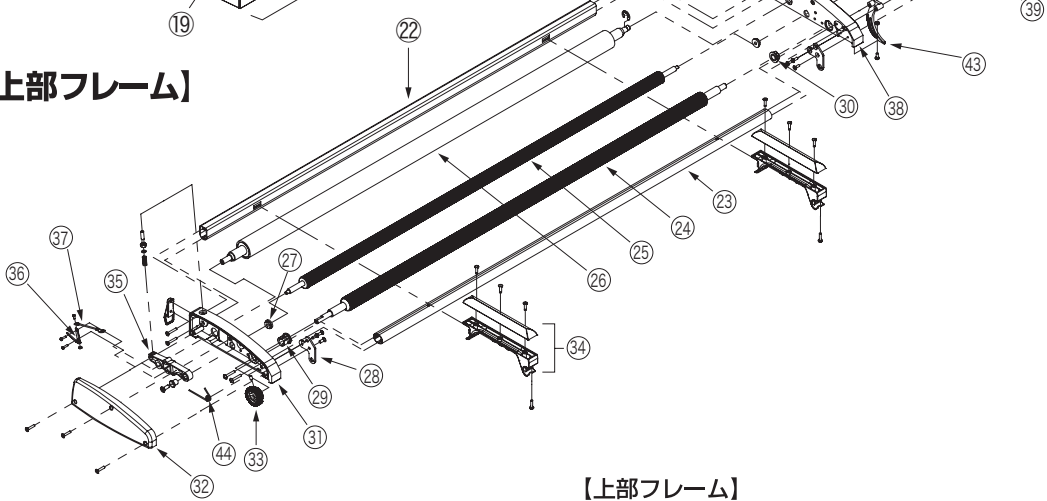
商品番号	部品名	使用個数
① 400-919	本体カバー-K	1
② 400-051	NEWテンションバー 1 LS	1
③ 408-002	NEWテンションバー 2	1
④ 400-052	テンションバーロックLS	2
⑤ 409-712	クロス芯棒	1
⑥ 404-988	クロス側板W(蝶ネジ付き)	2
⑦ 408-604	クロス受け摺動材(ネジ側)ブラック	2
408-605	クロス受け摺動材(ナット側)ブラック	2
⑧ 400-263	クロス受けブラケット	2
⑨ 400-264	ツマミ	2
⑩ 400-921	キャスター-K ストッパー有 100φ	2
⑪ 400-922	キャスター-K ストッパー無 100φ	2
⑫ 408-606	脚キャップC(左前・右後)ブラック	2
408-607	脚キャップC(右前・左後)ブラック	2
⑬ 401-253	パチン錠SC	4
⑭ 400-702	カットテープ取り付けキット ラクシヨ※1	1
⑮ 400-703	幅可変型テープガイド ※1	1

※1 セット内容の詳細はP.15をご覧ください。

【糊タンク】



【上部フレーム】



【糊タンク】

商品番号	部品名	使用個数
⑯ 409-724	糊上げギヤ	1
⑰ 400-055	糊止めパッキンLS	1
⑱ 400-923	糊上げローラーセットK ※1	1
⑲ 400-924	糊上げブラケット(左)K	1
⑳ 400-057	糊上げブラケット(右)LS	1
㉑ 401-233	糊タンクセットS ※2	1

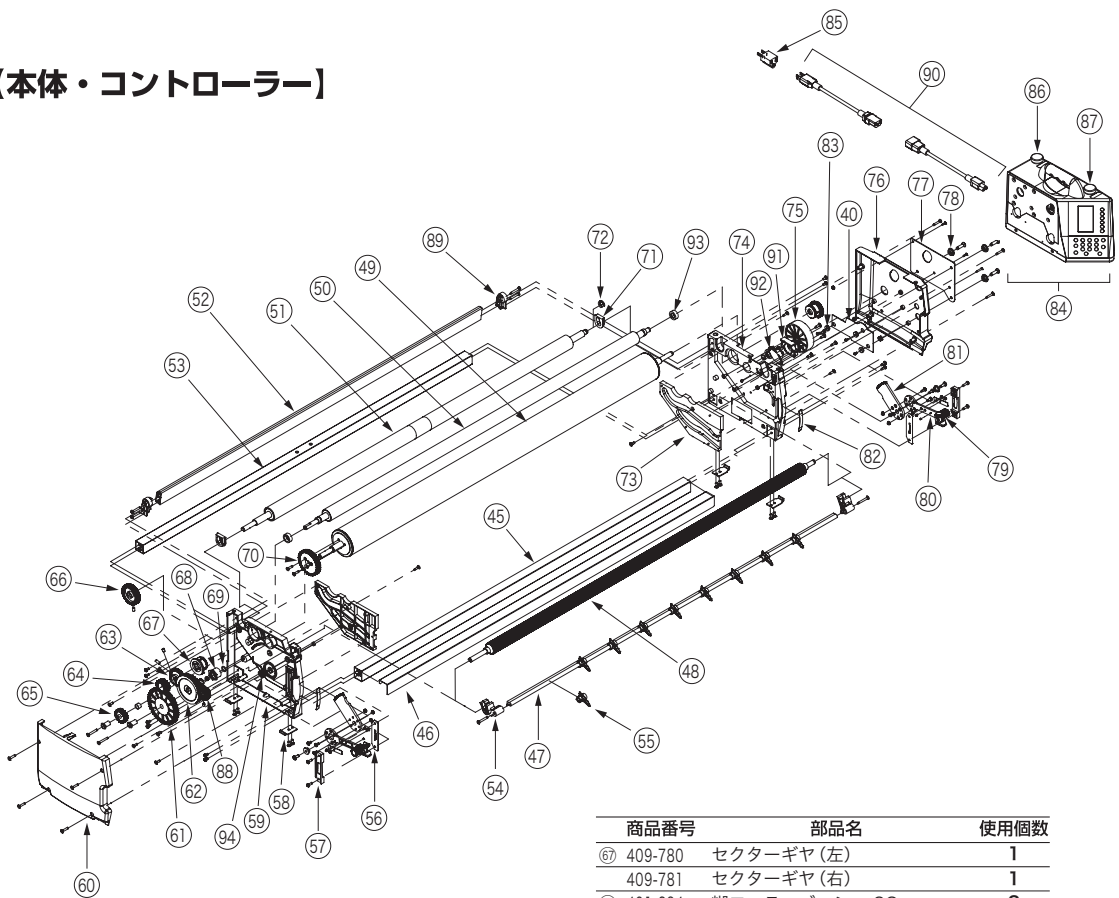
※1 ⑯、⑰を部品として含みます。

※2 ⑲、⑳を部品として含みます。㉑は含まれません。

【上部フレーム】

商品番号	部品名	使用個数
㉒ 400-926	マルパイブステー 1K	1
㉓ 400-927	マルパイブステー 3K	1
㉔ 401-254	ドライブローラー SC	1
㉕ 400-928	オサエローラー K	1
㉖ 408-649	検尺ローラー	1
㉗ 408-650	オサエローラーブッシュ	2
㉘ 400-063	ヒンジ板(左)LS	1
400-064	ヒンジ板(右)LS	1
㉙ 400-929	ドライブローラーブラケット K	1
㉚ 408-653	ドライブローラーブッシュ	1
㉛ 401-243	軸受板3 SC	1
㉜ 401-244	軸受カバー 3 S	1
㉝ 409-741	ドライブギヤ	1
㉞ 401-440	取手 CL	2
㉟ 400-933	検尺ブラケット K	2
㊱ 409-744	静電防止金具	1
㊲ 409-745	静電防止金具用電線	1
㊳ 401-245	軸受板4 SC	1
㊴ 401-246	軸受カバー 4 S	1
㊵ 400-976	センサーケーブル K	1
㊶ 409-749	マグネットフィン1	1
㊷ 409-751	パチン錠(本体)	2
㊸ 400-936	ダンパーギヤ1	1
㊹ 400-937	ドライブローラーパネ	1

【本体・コントローラー】



【本体・コントローラー】

商品番号	部品名	使用個数
45	400-938 定規ステー K	1
46	408-659 カッター定規	1
47	400-939 ツメステー K ※1	1
48	400-989 ナラシローラー K	1
49	400-940 糊ローラー K	1
50	400-941 ドクターローラー K	1
51	409-758 オクリダシローラー	1
52	400-942 マルパイプステー 2 K	1
53	400-943 ベースステー K	1
54	400-944 ツメステーブラケット (左) K	1
55	400-945 ツメステーブラケット (右) K	1
56	400-473 ツメ F LG	9
57	409-769 糊厚調整ブラケット 1	2
58	409-770 糊厚調整ブラケット 2 (左)	1
59	409-771 糊厚調整ブラケット 2 (右)	1
60	400-075 パチン錠フック	4
61	401-239 軸受板 1SC	1
62	401-240 軸受カバー 1S	1
63	409-775 テンションギヤ 1	1
64	400-076 糊付ギヤ 1 LS	1
65	400-643 ドクターギヤ 2 NN ※2	1
66	400-642 ドクターギヤ 1 NN ※2	1
67	408-678 テンションギヤ C	1
68	409-779 オクリダシギヤ	1

※1 400-959 ツメステー K ー式 (47)、(54)、(55) を組み立てたものです

※2 400-644 ドクターギヤ 1, 2NNセット (63)、(64) のセットです。

単品では取り扱っておりませんのでご注意ください

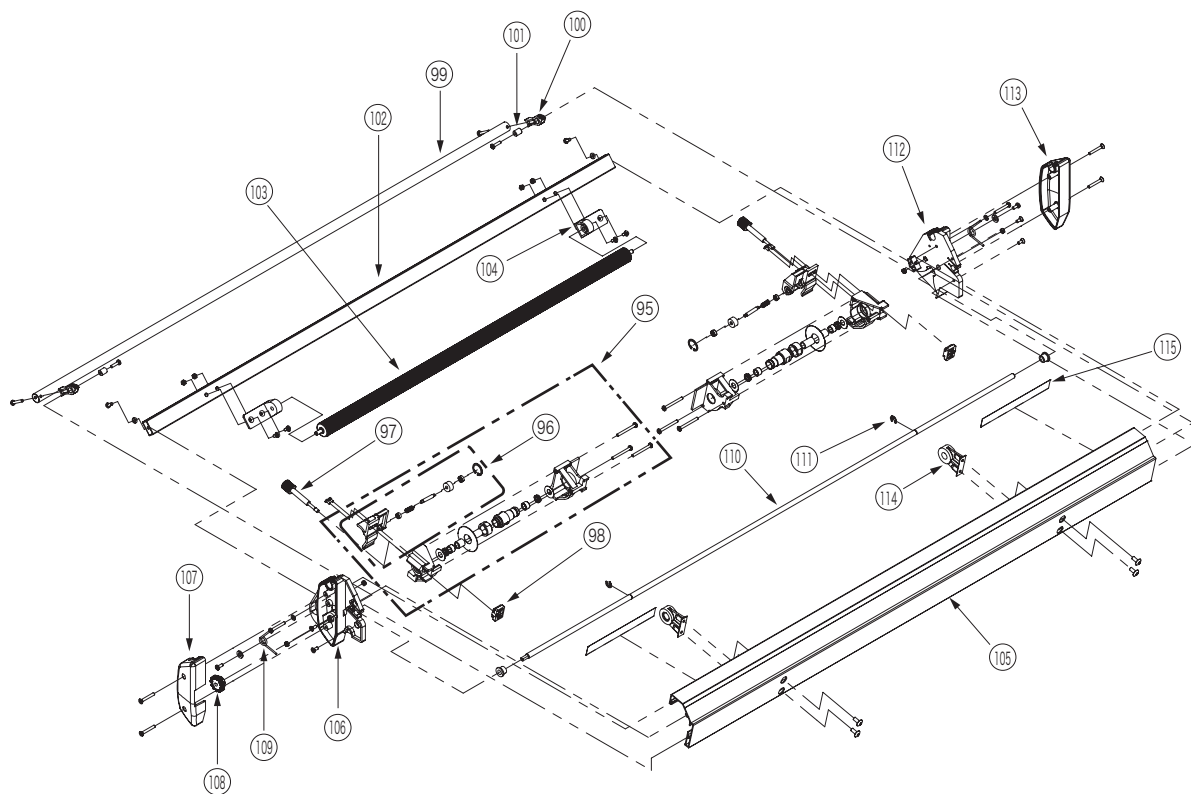
商品番号	部品名	使用個数
67	409-780 セクターギヤ (左)	1
68	409-781 セクターギヤ (右)	1
69	401-234 糊ローラーブッシュ SC	2
70	409-783 Oリング	2
71	409-784 糊付ギヤ 2	1
72	409-785 オクリダシローラーブラケット (左)	1
73	409-786 オクリダシローラーブラケット (右)	1
74	404-840 E型止輪 (呼び径 8)	1
75	401-251 ガイドレール (左) SC	1
76	401-252 ガイドレール (右) S	1
77	401-241 軸受板 2 SC	1
78	400-083 糊付ギヤ 3 LS	1
79	401-242 軸受カバー 2 S	1
80	409-792 PCB補強板	1
81	400-952 PCB止具 K	3
82	408-612 糊厚ツمامミ ブラック	2
83	408-613 糊厚調整レバー (ツمامミ付き) ブラック	2
84	400-645 糊厚調整ギヤ (右)	1
85	400-646 糊厚調整ギヤ (左)	1
86	409-797 糊厚調整シール	2
87	409-798 センサー基板取付キャップ	3
88	401-463 COATAX SHO-55 コントローラー	1
89	400-987 変換プラグアダプター黒	1
90	400-953 割り込みスイッチキャップ K	1
91	400-954 ストップスイッチキャップ K	1
92	409-777 ナラシギヤ	1
93	400-576 マルパイプステー補助台 (右) QN	1
94	400-577 マルパイプステー補助台 (左) QN	1
95	401-257 電源ケーブル黒 ^{注1}	1
96	401-258 中継電源ケーブル黒 ^{注2}	1
97	400-955 ダンパーホルダー	1
98	400-956 ローターダンパー	1
99	400-957 セクターギヤ保護ブッシュ	2
100	400-958 上蓋トーションパネ	1

※401-259 電源ケーブルセット黒 (85)、(90) のセット品です。

注1：電源コンセント接続側

注2：コントローラ接続側

【スーパードライブスリッター】



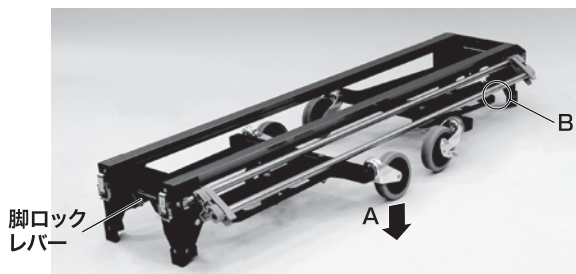
【スーパードライブスリッター】

商品番号	部品名	使用個数
95 401-235	カッターボックスセット左・SC	1
401-236	カッターボックスセット右・SC	1
96 401-255	耳切ガイドセット(左)SC	1
401-256	耳切ガイドセット(右)SC	1
97 409-831	刃幅調整ツマミ	2
98 400-560	スライド固定具Q	2
99 400-962	スリッターテンションバーK	1
100 400-963	スリッターテンションバーブラケットK	2
101 400-964	スリッターテンションバー軸	2
102 400-965	スリッターレール2K	1
103 400-966	スリッターオサエローラー	1
104 401-439	スリッターオサエローラーブラケットSC	2

商品番号	部品名	使用個数
105 400-968	スリッターレール1K	1
106 400-969	軸受板5 K	1
107 401-468	軸受カバー5 BL	1
108 409-816	駆動軸ギヤ	1
109 400-971	スリッターテンションバーバネ(左)	1
110 400-972	スリッターテンションバーバネ(右)	1
111 408-012	駆動軸	1
112 409-827	E型止め輪(呼び径6)	2
113 400-973	軸受板6 K	1
114 401-469	軸受カバー6 BL	1
115 400-975	SSブラケット K	2
409-822	スケールプレート(左)	1
409-823	スケールプレート(右)	1

脚部の組立、テンションバーの取付

- ①脚ロックレバーを手で引き上げながらロックをはずし、矢印Aの方向に開いてください。(第1図参照)
- ②ツマミを緩め、クロス受けブラケットを図の方向に倒してください。(第2図参照)
- ③ツマミを固定してください。



第1図(脚部を折りたたんだ状態)



第2図(脚部組立状態)

脚部の折りたたみ、収納

第3図の脚ロックレバーを手で引き上げながら、矢印Cの方向に脚を折りたたみ、ロックさせてください。
 (脚ロックレバーは握ったままの状態ですと、ロックはかかりません。ロックが解除されましたら、脚ロックレバーから手を離してください。組立・収納どちらの場合も同じです。)



第3図

⚠ 警告

脚を外に開くとき、第1図のB部(4カ所)に手をはさむ恐れがありますので、十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。脚を内側に折りたたみ収納する際も、脚が確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

脚部組立の際、脚ロックレバーを解除しますと、脚部がフリーの状態になりますので、手や足などにケガをしないように注意してください。

💡メモ

クロス芯棒はスリッターに収納することができます。

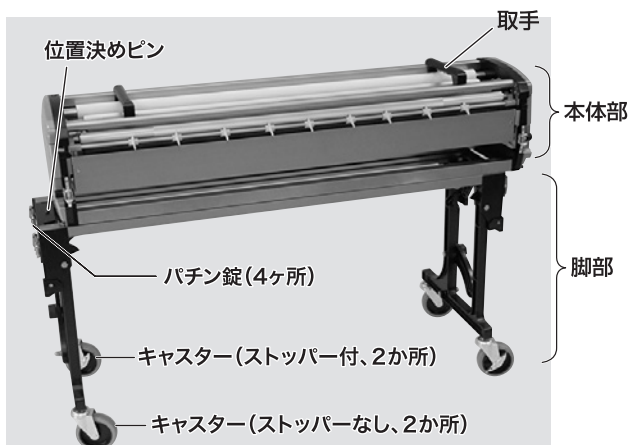
本体部の取付

①キャスターのストッパー(2ヶ所)を下に押し(ON位置にし)、ロックさせてください。

②機械本体を背面より持ち上げ、脚部上部に載せてください。(第4図参照)

その際、脚部上部(左右2ヶ所)にある位置決めピンが本体部下部(左右2ヶ所)にある位置決めU溝部(第5図参照)に入るようセットしてください。

③パチン錠(4ヶ所)で本体部と脚部を固定してください。



第4図

△ 注意

製品出荷時は、本体部と脚部を逆に取付けてありますので、正しい位置に取付け直してご使用ください。

△ 注意

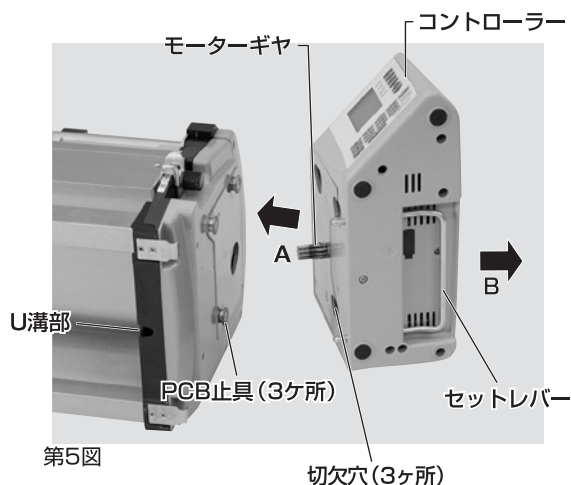
本体部、脚部をパチン錠(4ヶ所)で確実に固定してください。

コントローラの取付

①Aの方向にコントローラを持っていき、本体側面のPCB止具(3ヶ所)にコントローラ側の切欠穴(3ヶ所)をあわせてください。

(第5図参照)

②セットレバー(コントローラ下部)をBの方向に引きながら、糊付けギヤ3とモーターギヤをかみ合わせた状態で斜め下向きにスライドさせ、コントローラが完全に機械本体にロックされたところでセットレバーを離してください。コントローラを上引っ張ってもはずれない状態が完全にロックされた状態です。



第5図

コントローラの取り外し

コントローラは、セットレバーをB方向に引きながら斜め上向きにスライドさせると取りはずせます。

△ 注意

安全の為、コントローラは本体から外すと動作しないようになっています。
故障ではありませんので本体にセットして動作確認してください。

△ 警告

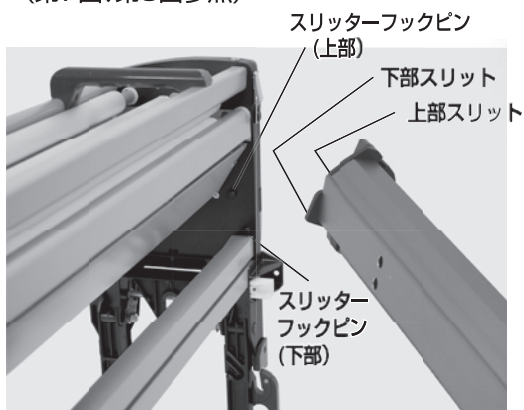
コントローラの着脱を行うときは、必ず電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△ 注意

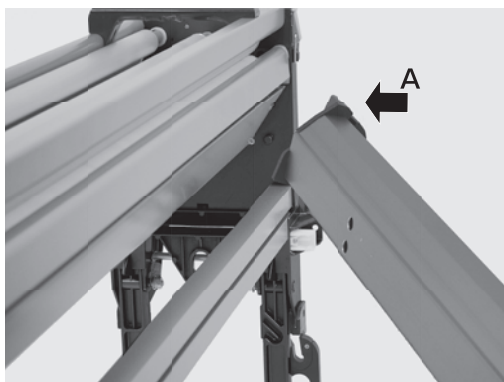
機械本体にコントローラが正しくセットされていないと、故障の原因となることがあります。
また、運転中にセンサーエラーを表示したり、設定長さよりもクロスが長く出たり、動かなくなったりすることがあります。

スリッターの取付

- ①スリッターを機械本体の背面に取付けます。
スリッター軸受板（下部スリット）を機械本体の左右の軸受板にあるスリッターフックピン（下部）に引っかけます。
（第6図、第7図参照）
- ②スリッター上部をA方向に押し込み、軸受板のスリッターフックピン（上部）にスリッター（上部スリット）をセットします。
（第7図、第8図参照）



第6図 (スリッター取付前)



第7図 (スリッターを引っかけた状態)



第8図 (完全にスリッターをセットした状態)

⚠ 警告

スリッターの取付けを行うときは必ずコントローラーの電源を切ってください。誤って動き出すとけがをすることがあります。

⚠ 警告

スリッターを取付けるときに刃物で手を切らないように注意してください。

⚠ 注意

スリッター取付時、スリッターの上部、下部が左右とも確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分な場合、スリッターが正常に動作しなかったり、落下する恐れがあります。

また運搬時、強い衝撃や揺れでスリッターが本体から外れる場合がありますので、ご注意ください。

※スリッターの駆動軸ギヤが正常にかみ合っていない場合、固定が不十分になります。

クロス原反のセット

- ①脚部のツマミを緩め、クロス受けブラケットを手前に引き出し、ツマミを確実に締め込んでください。(第9図参照)
- ②クロス原反にクロス芯棒を通し、クロス側板で両側からはさみ込みます。
- ③クロス芯棒の溝部をクロス受けブラケットにはめ込みます。クロス受けブラケットとの間隔が左右同じとなるようにクロス原反を中央にセットし、クロス側板で両側から固定します。

⚠ 警告

クロス原反にクロス芯棒を通す際、またクロス受けブラケットにセットする際等、手をはさんだり、原反を落下させ、けがをされないよう十分に注意してください。

⚠ 注意

クロス原反を中央にセットし、スリッター裁断目盛を左右同じにしてもクロスの耳くすの幅が左右同じにならない場合は、クロス原反を耳くすの幅の狭い方へ少し移動してください。



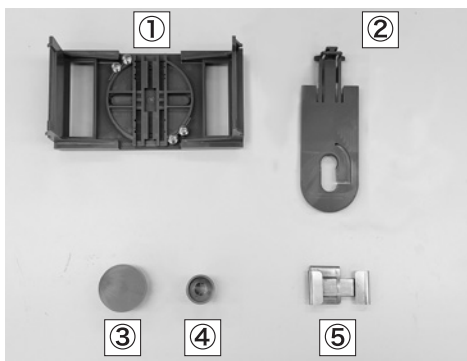
第9図

カットテープのセット

<カットテープ取り付けキット“ラクッショ”セット内容>

① スライドベース	1個	400-704
② テープ側板	2枚	400-705
③ テープ芯(40 mm)	2個	400-706
④ テープ芯(25 mm)	2個	400-707
⑤ 幅可変型テープガイド	1個	400-703

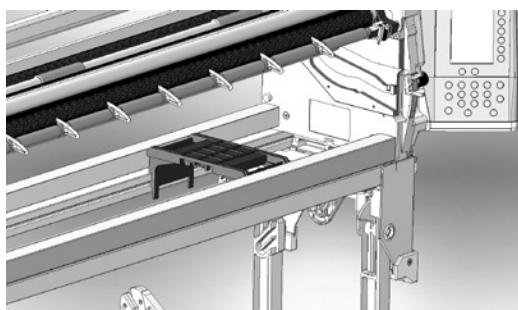
※①～⑤のパーツの個別注文にあたっては、いずれも1パッケージ当たり1個での梱包となります。また、①にはトラスネジ(品番404-992) および平ワッシャー(品番404-910)各4個が取り付けられた状態で付属しております。



- ①糊付機本体から糊タンクを外し、定規ステーとベースステーとの間にカットテープ取り付けキット“ラクッショ”のスライドベースをセットします。(第10図参照)

△ 注意

“ラクッショ”のスライドベースは、パチンと音がするまでしっかりと押し込んでください。



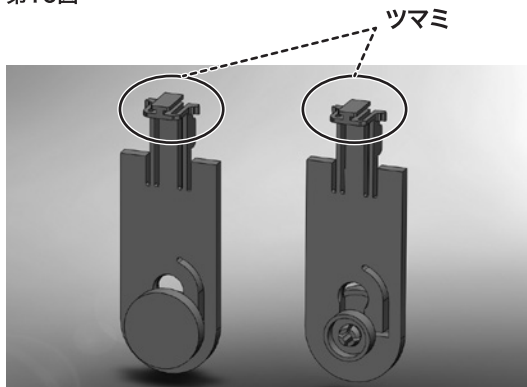
第10図

- ②“ラクッショ”のテープ芯が側板の溝の下側にセットされていることを確認し、ツマミを持って側板2枚をスライドベースに挿入します。(第11図、第12図参照)

💡メモ

カットテープの芯の径に応じ、テープ芯を第11図のように付け替えてご利用いただけます。

テープ芯を取り外すには、40mm用の芯を25mm用の芯から引き抜いた後、25mm用の芯を溝の上側に持ち上げます。



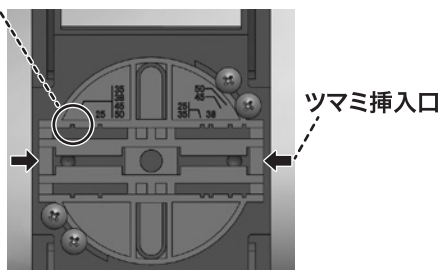
第11図

- ③カットテープを2枚の側板の間に挟み込み、テープ幅に応じて側板の位置を調節します。

△ 注意

“ラクッショ”のスライドベースの裏側に、位置合わせ用の溝があります。(第12図参照) 側板の位置調整の際は、ツマミについているツメを確実に位置合わせ溝へ合わせてください。

位置合わせ溝: テープの幅に応じて使用箇所を変更



第12図

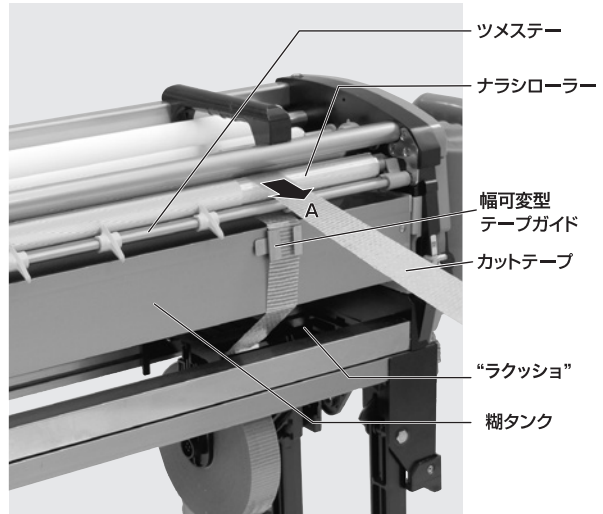
④幅可変型テープガイドを糊タンク前面の所定の位置に上から差し込んでください。

⑤“ラクッショ”のスライドベースを幅可変型テープガイド正面の位置に移動させた後、上部の隙間からテープを引き出し、ナラシローラーに沿わせて巻きつけます。

⑥テープを A のように引き出し、幅可変型テープガイドに収めます。

⑦テープ幅に応じて幅可変型テープガイドの幅を調節したらセット完了です。

(第 13 図参照)



第13図

△ 注意

ナラシローラーのカットテープ通過部分に糊が付着している場合、必ず糊を拭き取ってからセットしてください。糊が付着しているとカットテープがナラシローラーに巻き込んだり、カットテープがクロスにダブついて付いたり曲がって付く場合があります。

△ 注意

カットテープとテープ側板との間にすき間があると蛇行する恐れがあります。すき間の無いようにセットし固定してください。

📌 メモ

カットテープの巻きの向きは、時計回り・反時計回りのどちらでもご利用いただけます。テープをベースの裏側に沿わせるようにしてセットしている場合で、糊付中にテープのツッパリなどが生じる場合は、テープの巻きを反対向きにセットしなおすと、改善される可能性があります。

△ 注意

テープの芯が変形したり、潰れたりしているものは正常にセットできない場合があるため、使用を避けてください。

< 運搬時の取り扱いについて >

本製品では、テープの巻きが十分に小さい場合、テープを糊付機から取り外さずに脚をたたみ、運搬することができます。

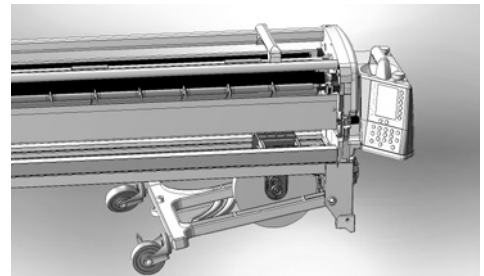
(巻きの大きさの目安: 直径18cm以下)

折りたたみの際は、テープが折りたたんだ脚に接触しない位置へキットをスライドさせてください。

・テープ径が約14cm以上の場合は、テープの巻きを90度回転させて横向きにしてください(第14図)。

この状態でも地面と接触する場合は、テープ芯の位置を側板の溝の上側に移動させてください。

・テープ径が約14cmより小さければ、縦向きのまま折りたたむことが可能です。



第14図

△ 注意

テープの種類によっては、直径が18cmを上回るために、糊付機に取り付けたまま脚を折りたたもうとすると、どのようにセットしても地面と接触するものがあります。

未使用に近い下敷きテープや、ひと巻きが長いカットテープなど、巻きが大きいテープをご利用の際は、折りたたむときに巻きの大きさに注意し、地面との接触が避けられない場合はテープをキットから取り外してください。

△ 注意

テープの巻きを回転させる際は、なるべく側板を持って動かすようにしてください。

△ 注意

テープ芯の位置を側板の溝の上側に移動させる場合は、ベースが糊付機から外れないように押さえながら、テープを上押しあげてください。

△ 注意

車に搬入する際にテープと車体が接触すると、スライドベースが外れる恐れがあります。

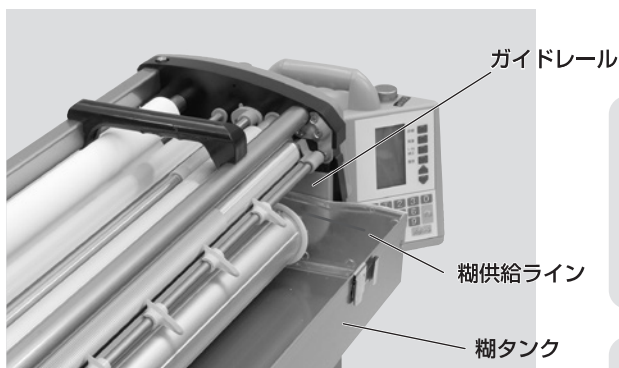
糊の供給

①糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり引き出し(約7cm)、固定位置で止めてください。ガイドレールには、固定のくぼみがあります。

(第15図参照)

②引き出した糊タンクの上から、糊を糊タンクの中全体に広がるように入れます。

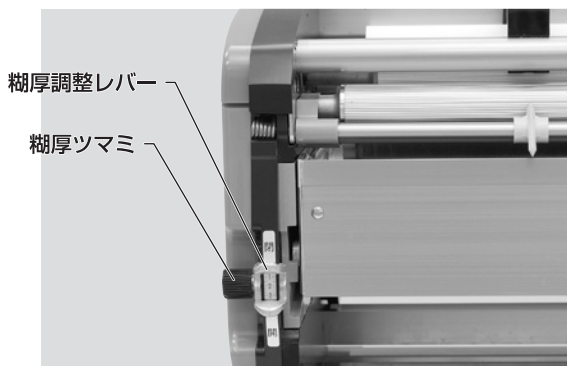
③糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり押し込み所定の位置に固定してください。



第15図

糊厚の調整

本機正面の糊厚調整レバー(左右各1ヶ所)を上下することにより、糊ローラーとドクターローラーの間隔が変化しますので、最適な目盛位置にセットして糊厚ツマミを締めてください。糊を入れ運転させながら行うと糊厚調整は容易です。(第16図参照)



第16図

△ 注意

糊を供給する際は、糊タンクをガイドレールの固定くぼみで止めて行ってください。糊タンクを引き出し過ぎると床に糊がタレたり、糊タンクが外れたりします。

△ 注意

接着剤の種類や希釈する際の水の添加量や希釈方法、希釈後の時間、あるいは気温等の環境条件等により接着剤の粘性が違います。最高スピードで運転しても糊があふれない程度に入れてご使用ください。入れすぎると糊が手前からあふれ出します。目安として、糊タンク両サイド内側の糊供給ライン(リップ下線)以下になるよう糊を入れてください。

△ 注意

出荷時に糊厚を左右同じになるよう調整しています。しかしながら、実際に糊付けした状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合は糊付け状態を確認しながら、本書P29を参考に調整してください。

△ 注意

高粘性の接着剤を糊付けした場合、壁紙の種類によっては糊タンク内に糊が残存していても、糊切れを起こしたり、糊付有効m数が減少する場合があります。特に高粘性の接着剤で糊厚を絞り、糊付スピードを早くした場合、発生しやすくなります。その場合は、適度に粘性をゆるめたり、若干糊厚を増やしたり、あるいは糊付スピードをゆるやかにする等調整してください。

△ 注意

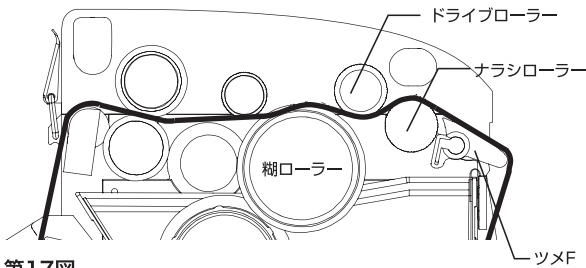
糊厚調整レバーはラベルの目盛範囲内で動かすようにしてください。無理に動かしますと機械の故障原因となります。

ツメ位置の調整

ツメの位置が悪いとクロス巻き込みや異音の原因となります。作業前に確認・調整を行ってください。

ツメF

ナラシローラーに触れない程度に手で回し調整してください。



第17図

Ⓐメモ

ツメは消耗部品ですので、破損や磨耗が大きい場合、新しいものと交換してください。
※ツメFは2個予備として付属しています。

⚠ 注意

ツメの位置が悪いと、動作時、ツメがローラーに当たり異音が発生する事があります。

⚠ 注意

壁紙の種類によっては、オサエローラーやドライブローラーの溝が壁紙の表装面を押さえる為に異音が発生する事がありますが、異常ではありません。

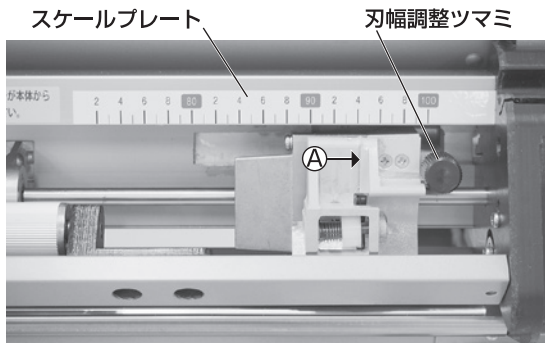
Ⓐメモ

ツメFを下方方向に強く回すと、ツメステーからツメFを取り外すことができます。また、新しいツメFを取り付ける場合は、ツメステーに強く押し込んでください。

裁断幅の調整

①スリッターの刃幅調整つまみ(左右各1ヶ所)を時計の針と逆方向に2回転ほど緩めると、カッターボックスを左右にスライドすることができます。

②カッターボックス内のAのラインがスリッターの刃の位置を示しています。Aのラインをスケールプレートの所要寸法位置にあわせ、Aのラインが左右のスケールプレートで同じ値にあることを確認して刃幅調整つまみを締めてください。(第18図参照)



第18図

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

⚠ 警告

裁断幅の調整は必ずコントローラの電源を切った状態で行ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

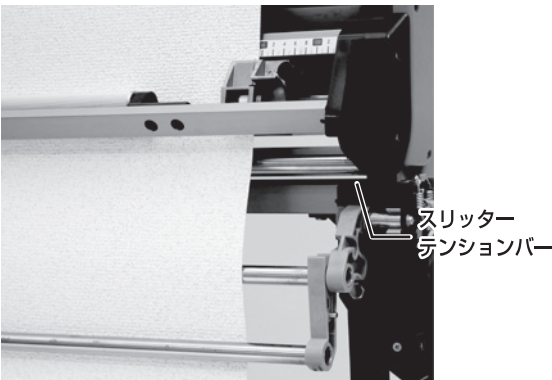
⚠ 注意

カッターユニットは、壁紙裁断時に出る切りくずやほこりが排出しやすい構造になっていますが、万一カッターボックス内に切りくず等が蓄積した場合、切れ味が悪くなります。その場合、竹串等で内部部品を傷めないよう慎重に取り除いてください。その際、必ずコントローラの電源を切ってください。また、カッターボックスは分解しないでください。

クロスを通し方

糊タンク内に糊が入っていることを確認したうえで作業を行ってください。

- ①スリッターテンションバーを奥側に倒しておきます。NEWテンションバー2のロックをテンションブラケットから外し、開放しておきます。(第19図参照)。
 - ②本体のパチン錠2か所を外し、上部フレームを起こします。
 - ③コントローラの電源を入れ運転させると、スリッターの刃物が回転します。
 - ④クロスを引き上げ、NEWテンションバー1・2の間、カッターボックス、本体部の順に通した後、運転を停止させます。
- ※原反を足で押さえるなどして、クロスが張った状態を維持してください。
- ⑤スリッターテンションバーを手前側に倒し、クロスの耳を引き出します(第20図参照)。
 - ⑥原反を足で押さえながらクロスを手で引き、クロスが張った状態で上部フレームを閉じます。パチン錠を2カ所を締めて確実にロックさせます。
 - ⑦NEWテンションバー2を持ち上げ、テンションブラケットにロックしてセットします(第20図参照)。



第19図(スリッターテンションバー解除状態)

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

⚠ 警告

運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まないように十分注意してください。

⚠ 警告

上部フレームを閉めるときは、手をはさまないように十分注意してください。

⚠ 注意

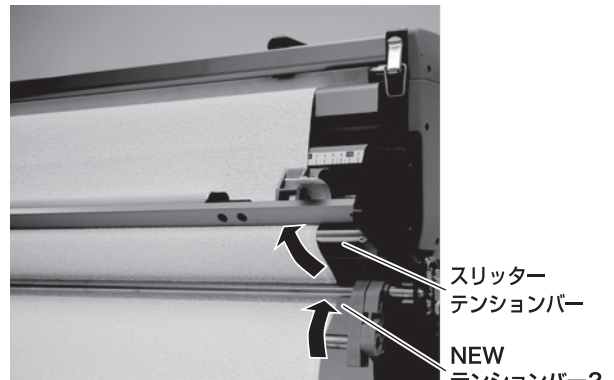
スリッターテンションバーを手前側に倒す際は、片手でスリッターを支えながら行ってください。急激に行いますとスリッターが本体から外れる場合があります。また運搬時、強い衝撃や揺れでスリッターが本体から外れる場合がありますので、ご注意ください。

⚠ 注意

一般的にNEWテンションバーを使用すると壁紙の蛇行がなくなり、スリッターでまっすぐ裁断できます。しかし、壁紙の種類によっては、重い材料や材料強度の弱いものがあり、NEWテンションバーをかけることにより壁紙が上らなったり、あるいは壁紙やNEWテンションバー等を傷める場合があります。このような場合、予め試験使用し、状態によってはNEWテンションバーの使用を避けてください。

⚠ 注意

クロスをセットした後、左右にたるみが無いか確認してください。たるみがある場合、原反を若干巻き戻し、たるみを解消してください。



第20図(スリッターテンションバー使用状態)



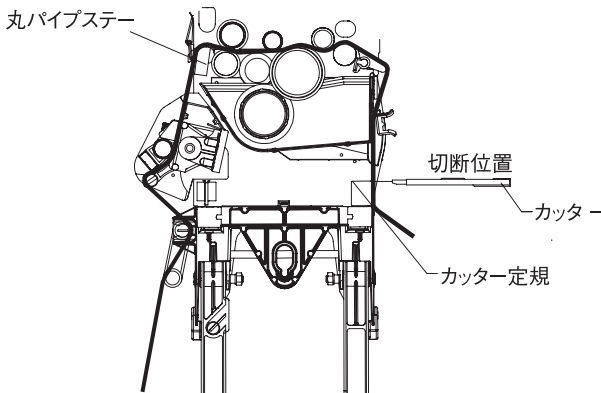
第21図(壁紙をセットした状態)

△ 注意

スリッターでクロス(紙)の耳を裁断時、クロス(紙)のセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。
クロス原反(紙)の位置、スリッターのカッターのカッター位置を左右同じにセットします。カッターボックスにクロス(紙)を通す時は原反(紙)を足で押さえクロス(紙)を貼った状態で通してください。上部フレームを閉じる時も同様に原反(紙)を足で押さえクロス(紙)を手で引き、張った状態で閉じて機械にセットしてください。

糊付け作業

- ① 糊付け作業を始める際、操作パネルの寸動を使用し、クロス(紙)に糊がついている部分が切断位置より少し長めになるように送ってください。
- ② 第22図のようにカッター定規に添わせてカッターを走らせ、長めに出したクロス(紙)をカットしてください。これでセット完了となります。
- ③ 操作パネルにて、クロス(紙)の長さ設定を行い本機を運転してください。操作パネルの使用方法はP21からP26をご覧ください。



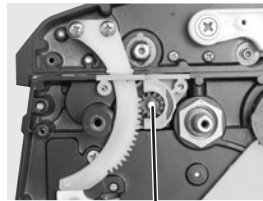
第22図

△メモ

壁紙の種類や状態によっては、耳裁ちの必要がない場合があります。耳裁ちしない場合はスリッターを取り外してください。

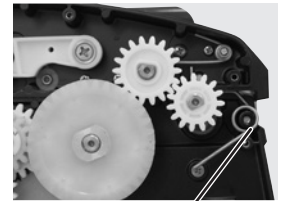
△メモ

本機種には、カウント検知基板(P.30参照)を上部フレームの衝撃から保護するための緩衝機構が搭載されています。(参考1図および参考2図参照)
 これらの部品が摩耗するなどし、交換を希望される場合は、当社営業所までお問い合わせください。



参考1図

ロータリーダンパー
(400-956)



参考2図

上蓋トーションバー
(400-958)

△ 警告

糊付け運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まれないよう十分注意してください。

△ 注意

カッターにて裁断する際、必ずカッター定規に沿わせて裁断してください。

△メモ

本機は糊付けスピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。
 糊付けスピードはスタートを押しての運転中、あるいは運転していない時に、寸動スピードは寸動を押し続けている運転中に、割込運転スピードは割込スイッチで運転中に、それぞれ操作パネルの(+)(-)キーを押して好みのスピードに設定してください。

△メモ

作業終了時、丸パイプステーにてクロス(紙)をカットすると片付けの際に便利です。

△メモ

引き出したクロス(紙)をしばらく静置し素早く裁断すると、クロス(紙)の左右端の長さを揃えやすくなります。

操作スイッチ

割込スイッチ

壁紙をセットする場合や、カウントに関係しない運転をしたい場合に使用します。
一度押すとON、もう一度押すとOFFになります。

ストップスイッチ

非常停止のときに使用します。

ON・OFFスイッチ

コントローラの電源をON/OFFします。



コントローラパネルのキースイッチ部分をカッター等の尖ったものや、ツメの先で押さないでください。故障の原因となります。



コントローラの表面についた糊などの汚れを落とすときは、固く絞った雑巾などで拭き取ってください。(スポンジで水拭きしないでください。)



コントローラは危険防止のため、本機から外すと動作しなくなります。本機にセットして動作確認を行ってください。



液晶画面に異常があった場合や動作に異常があった場合は一度電源を切り、リセットボタンを押した状態で電源を入れてください。(コントローラを初期化します) 異常が修復できない場合はメーカーにご連絡ください。

操作パネル

画面切替

ボタンを押すと糊付画面の切替(通常↔詳細)、残量設定画面、トータル補正画面、履歴画面への切替えができます。



- ①スピードのUP、DOWN
- ②補正值の設定(+、-)
- ③糊付履歴のスクロール

枚数

枚数設定時に使用します。

糊付設定

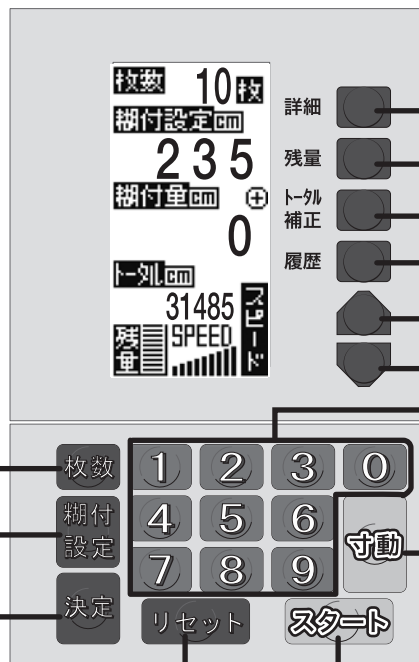
糊付け長さの設定を行うときに使用します。

決定

入力した糊付設定・枚数設定・残量設定・補正值設定を決定するときに使用します。

リセット

- ①糊付量の値を0にするときに使用します。
- ②入力した数値を0にするときに使用します。
- ③トータルをクリアするときに使用します。
- ④コントローラを初期化するときに使用します。



0~9

数字キー。設定値入力に使用します。

寸動

寸動(インチング)で動かしたいときに使用します。押し続けている間だけ動きます。

スタート

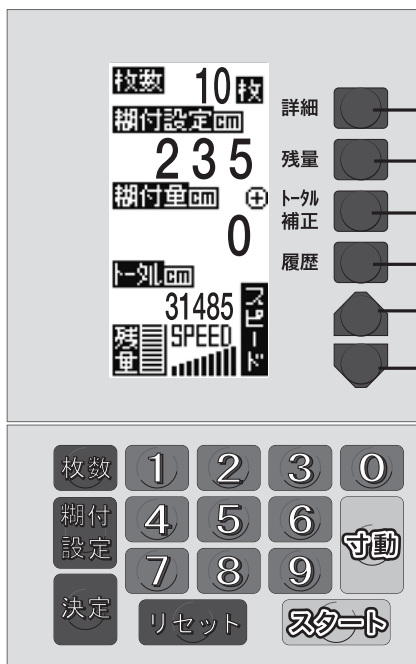
糊付設定及び枚数設定後、運転するときに使用します。

操作方法

電源コードをコンセントに差し込み、コントローラー背面にある電源スイッチ (ON/OFF) をONにすると、通常糊付画面になります。

通常糊付画面

- ① **糊付設定**を押します。背景が黒くなり入力待ち状態になります。
 - ② 糊付けしたい数字を入力し**決定**を押してください。押し間違えたときはリセットを押してください。(例:右図は235cmが入力してあります)
 - ③ **枚数**を押してください。背景が黒くなり入力待ち状態になります。
 - ④ 糊付けしたい枚数を入力し**決定**を押します。(例:右図は10枚が入力してあります。)
 - ⑤ **スタート**を押すと糊付けを開始します。糊付けが進むにつれ、糊付量がカウントされ235cmになった時点で、糊付けが停止します。
 - ⑥ 停止すると、枚数表示が9枚となり、リセットを押すと糊付量が0になります。
 - ⑦ この後⑤と⑥の作業を繰り返します。枚数が1枚ずつ減っていき、0になった時点で**スタート**を押しても機械は動かなくなります。
- 枚数に関係なく糊付する場合は**枚数**を押して、**リセット**もしくは**0**を入力し、**決定**を押してください。「枚数」の表示が「カウント」に切り替わります。
この後、**スタート**で糊付けし、設定値に達するとカウントが加算されます。



詳細糊付画面に切替ります。

残量設定画面に切替ります。

トータル・補正画面に切替ります。

履歴確認画面に切替ります。

スピードのUP・DOWNを行えます。

△ 注意

糊付設定を変更するときには**リセット**を押して糊付量表示を0cmにしてから行ってください。

糊付量の値をリセットしないまま糊付設定に新しい値を入力してスタートすると、前回の糊付量表示値からスタートしますので、糊付設定値よりも長さが短くなります。

メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。

④⑦ ボタンで**スピード**を設定してください。

糊付スピードは**スタート**を押しての運転中、あるいは運転していない時に設定します。

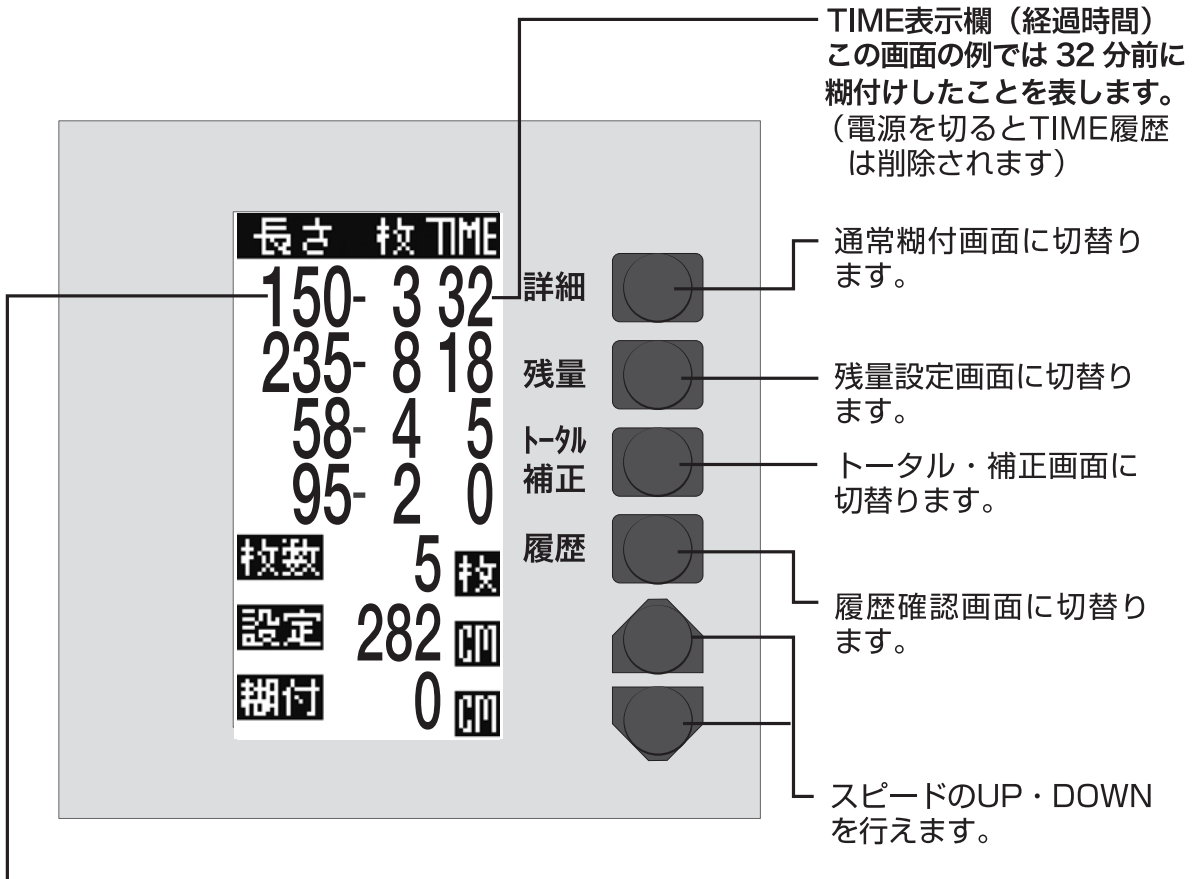
寸動スピードは**寸動**を押し続けて運転中に設定します。

割込運転スピードは割込スイッチで運転中に設定します。

画面下部 (SPEED部) に現在のスピードの目安が表示されます。(スピード調整範囲 4~20m/分)

詳細糊付画面

通常糊付画面で詳細キーを押すと、詳細糊付画面に切替ります。
直近に実行した糊付の内容と、実行してからの経過時刻を表示します。
(糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます)



詳細表示欄

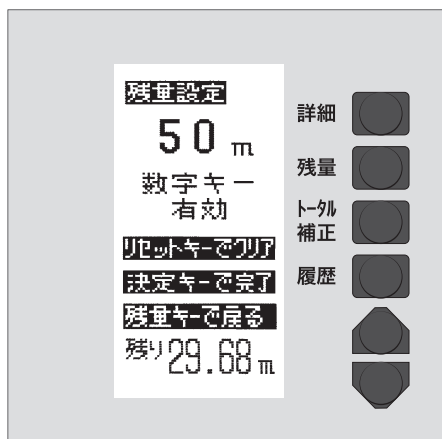
この画面の例では、長さ 150cm を 3枚糊付けしたことを表します。

メモ

詳細部分を見ながら糊付けが可能です。また、TIME 表示欄で示される経過時間は 99 分までです。糊付けした壁紙のオープンタイムの確認等にご利用ください。

【残量設定】

任意の長さの壁紙を糊付けし終えた際に、警報音でお知らせする機能です。糊の補給や、壁紙残量の確認を行う際の目安としてご利用いただけます。



メモ

残量機能の使用中に残量設定画面を開くと、画面最下部に残りの長さが数値で表示されます(上図参照)。

- 1 糊付画面の残量キーを押すと、残量設定画面に切替ります。
- 2 数字キーを押し、設定値を入力します。(左図は50を入力)
- 3 決定キーを押すと残量値が入力され、通常糊付画面に切替ります。画面左下の残量計目盛が表示されます。(横バー10本)
- 4 糊付け作業を進めるに従い、残量計目盛りが減っていきます。目盛りが0本になると、数値での表示に切り替わります。
- 5 設定値の糊付が完了したら警報音がなります。

残量機能の解除

残量設定画面で、0mを入力し、決定を押せば残量設定機能は解除されます。

△ 注意

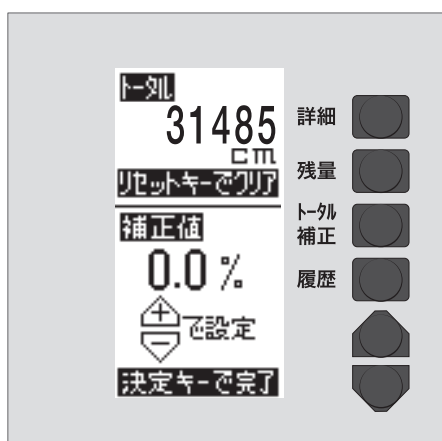
残量値が0になり警報音が鳴った後は、残量設定機能の解除、又は再入力を行わないと、糊付作業の度に警報音が鳴ります。

【トータル・補正画面】

1.補正機能

クロスの種類によって、多少設定長さに対して長く出たり、短く出たりすることがあります。

このような場合に、クロスの糊付け長さを割合で補正する機能です。



- 1 糊付画面でトータル補正キーを押すとトータル・補正画面に切替ります。
- 2 \oplus \ominus のキーで補正值を設定します。補正值は $-2.0\% \sim +2.0\%$ の範囲で0.5%毎に設定できます。
- 3 決定キーを押すと補正值が入力され、通常糊付画面に切替ります。液晶画面右側に補正值が+の場合は \oplus を、補正值が-の場合は \ominus を表示します。

補正機能の解除

補正の設定値を0.0%にして決定を押せば補正值は解除されます。

2.トータル機能

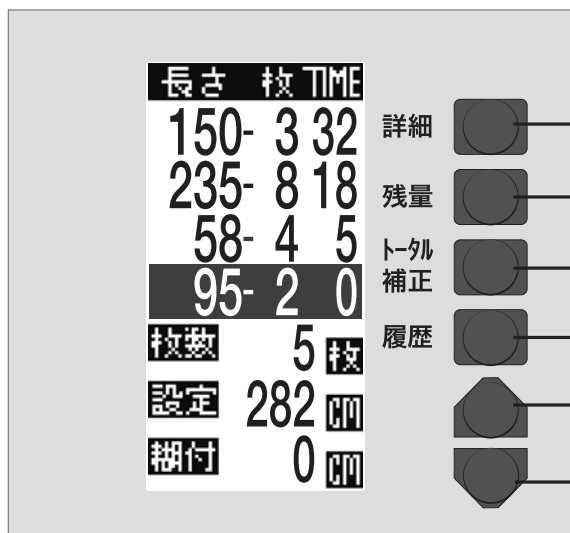
糊付量のトータルを通常糊付画面に表示できます。

トータル補正画面でリセットキーを押すとトータルをクリアすることができます。

履歴確認画面

糊付画面で履歴キーを押すと、履歴確認画面に切替わります。

⊕ ⊖ キーを操作する事で、糊付履歴をスクロールして確認する事ができます。



△ 注意

糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます。また、電源を切るとTIME履歴は、削除され、横バーが表示されます。

- 詳細 前の画面に戻ります。
- 残量 残量設定画面に切替わります。
- トータル補正 トータル・補正画面に切替わります。
- 履歴 前の画面に戻ります。
- 履歴をスクロールできます。

メモ

その他のキー(数字キー等)を押しても、元の画面に戻ります。

【エラー表示画面】



①

● 入力電圧異常

起動時、電圧が70V以下もしくは130V以上の場合、①のエラー表示が点灯し、コントローラーは動作しません。適正な電圧で作業してください。動作中に電圧低下があった場合は、エラー表示しますが、動作はします。電圧が復旧するとエラー表示は消えます。(ただし、スピードが遅くなる等の症状が出る場合があります)

● 過負荷異常

ギヤ・ローラー等に噛み込みや巻き込み等があり、コントローラーのモーターに過負荷がかかった場合、②のエラー表示を点灯し、コントローラーを停止します。原因を取り除き再度作業してください。



②



③

● センサー読込異常

糊付け運転中、上部フレームのパチン錠が閉められていない場合やコントローラーが本体に正しくセットされていない場合、あるいはセンサー部分に異常があった場合に③のエラー表示が点灯します。

本体部の掃除・手入れ

7

掃除・手入れの程度が機械の性能と寿命に大きく影響しますので、糊付け作業終了後は以下のようにして掃除及び手入れを行ってください。

本体部の掃除

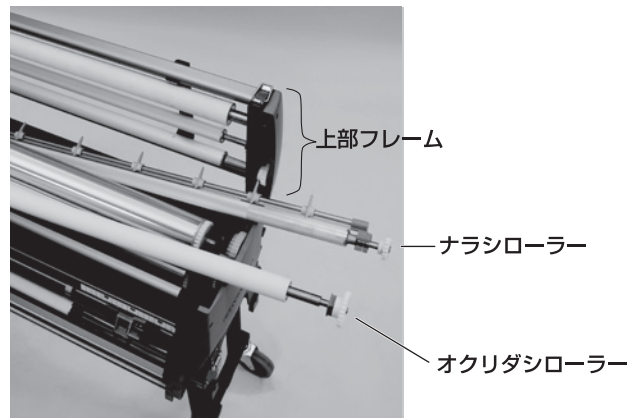
- ①機械本体を空運転させながら糊厚調整レバーを絞って糊ローラーとドクターローラー表面の糊を糊タンクに落とします。
- ②糊付機械を停止させた後、上部フレームを開き、コントローラー、スリッター、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体より取り外してください。
(第23図参照)
- ③取り外したツメステー及びナラシローラーは、スポンジ等を使用して水洗いしてください。
- ④機械本体より糊タンクを完全に引き出し、糊タンクの中の糊を糊バケツに戻します。
※糊タンクを引き出す際に糊ローラーより糊が床に垂れることがありますので、予め床に養生しておいてください。
- ⑤糊タンクから糊上げローラーを外し（P28第24図参照）、スポンジ等を使用して糊上げローラーを水洗いしてください。この段階では、糊タンクは完全に洗浄せず、ゴムベラで掻き落せる分だけ糊を落します。
- ⑥糊上げローラーを外した状態で糊タンクを機械本体にセットします。
- ⑦手で糊ローラーを回転させながら、糊ローラー及びドクターローラーをスポンジ等で水洗いしてください。P28第25図参照)
- ⑧再び機械本体から糊タンクを完全に引き出し、糊タンク内を洗浄します。

⚠ 警告

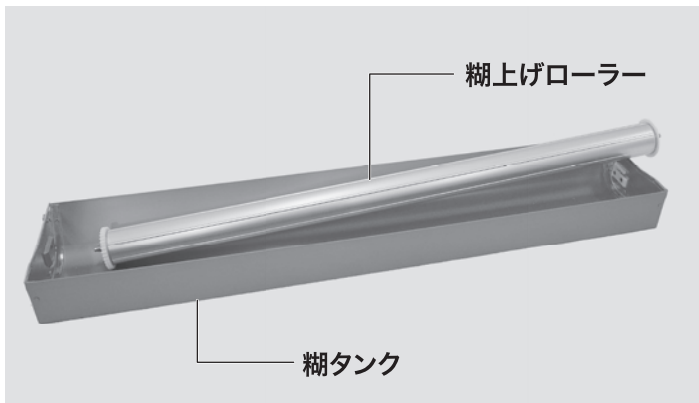
機械本体を洗浄するときは、コントローラー、スリッター及びオクリダシローラーを取りはずして行ってください。ローラーの間に手や衣類を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりするなどの思わぬ事故を未然に防ぎます。

△ 注意

糊ローラー、ドクターローラー表面の糊は完全に除去してください。薄い膜状に糊が残っているだけで糊付け状態が悪くなる場合があります。又、オクリダシローラー、検尺ローラーについても糊が表面に残っていると、表面にひび割れを起こし、正常な運転をしなくなる恐れがあります。



第23図



第24図



第25図

- ⑨ 糊上げローラーを糊タンクに取付け、機械本体にセットします。
- ⑩ スリッター、コントローラー、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体に取付けてください。
- ⑪ 洗浄後、乾いた布等で水分をよく拭き取ってください。また、脚やフレーム等に付着した糊もきれいに拭き取ってください。

機械の手入れ



第26図

コントローラー

△ 注意

センサー基板の部分には水や糊をかけないようにして下さい。万一かかった場合は、雑巾などで拭き取り乾燥させてください。

△ 注意

機械本体を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。第26図のようにホースなどで水を直接コントローラーやスリッター等に掛けないようにしてください。汚れを落とすときは固く絞った濡れ雑巾をご使用ください。水が掛かった場合には水分をよく拭き取ってください。

メモ

定期的にローラーの軸受部やギヤ部にグリスを注入したり、ギヤの歯に固まってついた糊を落としてください。運転中の異音の発生を防ぐとともに、常に機械をスムーズに運転させることができます。

本機の調整・点検に当たりましては、付属の六角レンチ、糊厚調整工具の他に、ドライバー(+)やボックスレンチ(10mm)等が必要ですので、事前に市販の工具を準備して下さい。

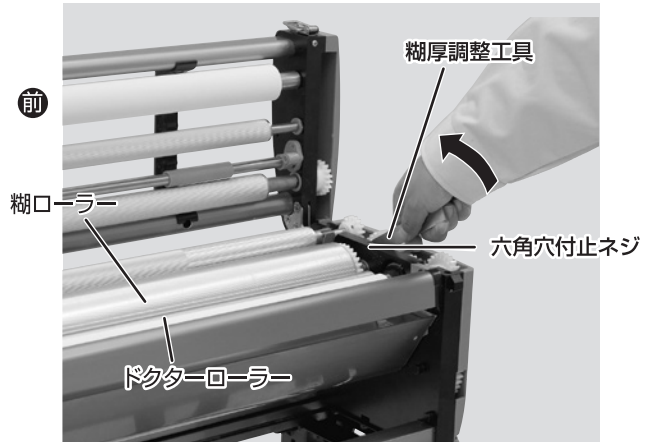
P29「1.糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整」、P30「2.検尺ローラーのピンチ圧調整」「3.カウント検知基板の反転」、P31「スリッターの刃物の交換方法」は動画でも確認できます。右のQRコードを読み取り「メンテナンス解説動画」から該当する動画をご確認ください。



1. 糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整

〔糊が絞れないときの調整〕 (糊付機械に糊が入っていない状態で行うと容易です。)

- ①左右とも糊厚調整レバーを目盛0の位置にあわせ、糊厚ツマミを締めます。
- ②左右とも六角穴付止ネジを六角レンチ(3mm)で緩めてください。
- ③第27図のように、糊付けギヤと軸受板の間にある糊ローラーブッシュ六角部に付属の糊厚調整工具をはめ込み、矢印の向きにゆっくり動かしてください。糊ローラーが移動します。
- ④ローラーを手で回しながら、糊ローラーとドクターローラーのすき間が0mmの位置で、六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。



第27図

後

〔左右で糊付量が違うときの調整〕

(糊付機に糊を入れた状態で行うと容易です。)

例：左側を右側と同じ目盛にあわせる場合

- ①左右とも糊厚調整レバーを同じ目盛にして、糊厚ツマミを締めます。
- ②左側の六角穴付止ネジを緩めて、第27図のように糊厚調整工具を使って、糊ローラーを移動させます。
※矢印の向きに動かすと糊が絞れ、反対の向きに動かすと糊が多つくようになります。
- ③割込みスイッチで運転させて、糊量を確認してください。
※壁紙等で実際に糊付け確認すると、より正確に調整できます。
- ④左右のバランスが同じになったらところで六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。

⚠ 警告

コントローラーは取り外した状態で調整してください。

⚠ 注意

糊ローラーとドクターローラーは強く接触させないでください。接触させるとローラー表面が傷つき、糊付け状態が悪くなります。

⚠ 注意

左右の糊付状態を確認する時は、必ず上部フレームを閉めてください。上部フレームが開いていると、実際の糊付状態と異なる場合があります。

2. 検尺ローラーのピンチ圧調整

(クロスの蛇行調整・クロス原反があがらないとき)

クロスが蛇行する場合やクロス原反が上がらないときは、ボックスレンチ(10mm)又はスパナ(10mm)で本体軸受板(3、4)の六角ナットを緩めてからピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチ(3mm)で回してピンチ圧を調整してください。(第28図参照)

【例】

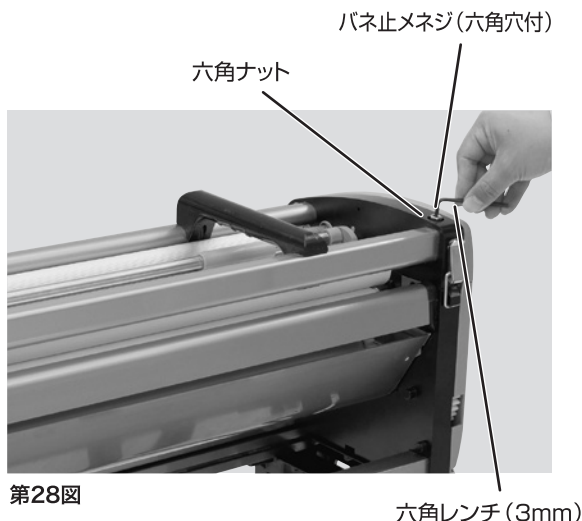
クロスが、糊付機械正面からみて左側に寄って出る場合

糊付機械正面からみて左側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで緩めてください(時計逆方向)。又は右側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで締めてください(時計方向)。又、上記調整はクロス(糊付けなし)を通しながら行うと容易に行えます。調整が終わったらボックスレンチ(又はスパナ)で六角ナットを締めてください。

メモ

締めすぎるとクロス糊付け長さは設定より若干長めに出るようになります。

また締めすぎ、緩めすぎてもクロス引き上げ能力が落ちます。



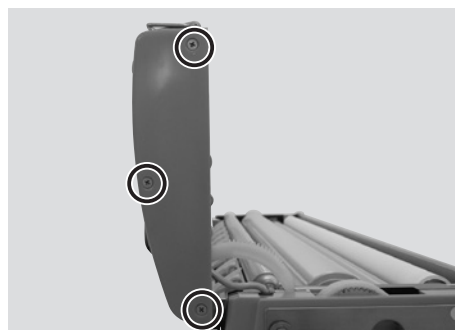
3. カウント検知基板の反転

カウント検知基板とは、糊付の際に、引き出した壁紙の長さの検知を担っている部品です。

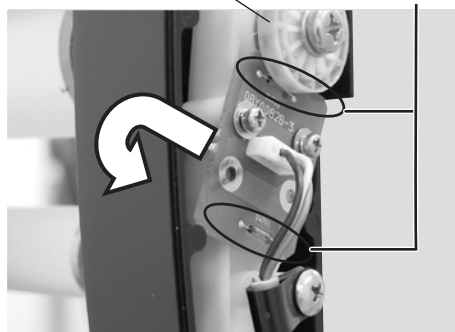
正しくセットアップした状態でコントローラがセンサー読み込み異常(P.26)を発する場合は、下記の手順に従い検知基板を反転させることで、改善する場合があります。

【手順】

- ① 本体の上部フレームを持ち上げ、コントローラ側の軸受カバーの皿ビス3本を外します。(第29図参照)
- ② 軸受カバーが外れ、内蔵されたカウント検知基板が確認できるようになります。基板を固定している、ナベビス2本を外します。その後、基板を矢印の向きに180°反転させます。(第30図参照)
- ③ 基板の穴のうち、使用していなかった2か所に外したナベビスを合わせ、基板を同じ位置になるように付け直します。
- ④ 軸受カバーを再度取り付けます。



マグネットフィン リードスイッチ



注意

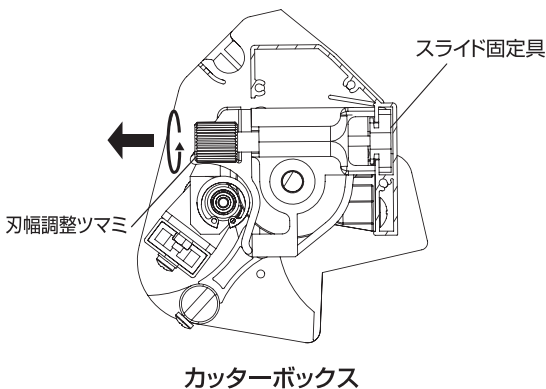
カウント検知基板には“リードスイッチ”が2か所あります。精密部品ですので、作業中はリードスイッチに衝撃を加えないよう注意してください。(第30図参照)

スリッターの刃物は、消耗品です。スリッターの切れ味が悪くなったら刃物（カッターボックス）を交換してください。厳密に修理する場合は、一旦当社へスリッターを戻していただき、詳細な点検調整を行ってください。

スリッターの刃物の交換方法

カッターボックスの外し方

- ① スリッターを本体から外してください。
- ② 刃幅調整ツマミを時計の針と逆方向に回し、後ろのスライド固定具から外してください。
(第31図参照)
- ③ 左右の軸受カバーを固定しているビス各3個を(+)ドライバーで緩めて軸受カバーを外します。
- ④ SSブラケットを止めているネジ2点を外します。SSブラケットをスリッター中央部に移動します。駆動軸ギヤがある側では、ギヤを固定している、六角穴付き止ネジを六角レンチ(2.5mm)でゆるめて取り外します。(第32図参照)
※駆動軸ギヤがない側では、ギヤを外す作業は不要です。
- ⑤ 駆動軸を矢印方向へ押し込んでいくと、カッターボックスが外れます。(第32図参照)



第31図

⚠ 警告

刃物を交換するときは必ずスリッターを本体から取り外して行ってください。

⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

カッターボックスを分解しないでください。手を切る恐れがあります。

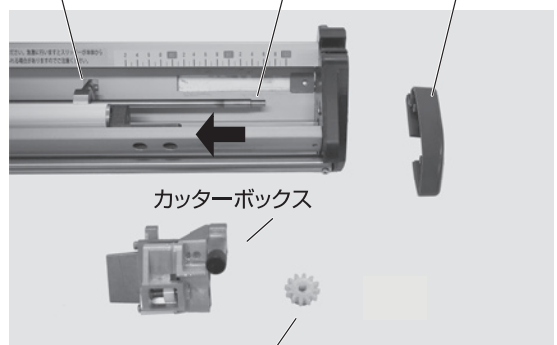
⚠ 注意

セラミッククロス、無機質クロス等、壁紙の種類によっては、極端に刃物を傷めますので注意してください。

メモ

スリッターの刃物は、3分間程度空回ししますと切れ味がよくなる場合があります。なお、空回しを行う際は研磨材に差油してから行い、終了時に拭き取るようにしてください。差油せずに行くと、異音が発生する場合があります。

SSブラケット 駆動軸 軸受カバー-5

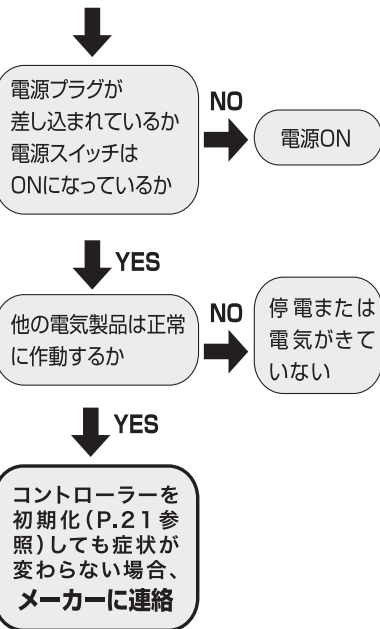


第32図

駆動軸ギヤ

本機に異常が生じた場合は、次の手順に従ってチェックしてください。

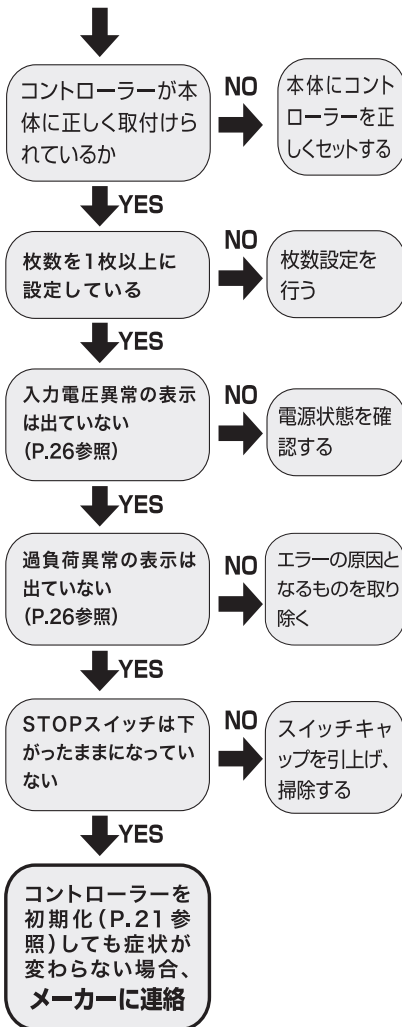
コントローラーの画面が表示されない



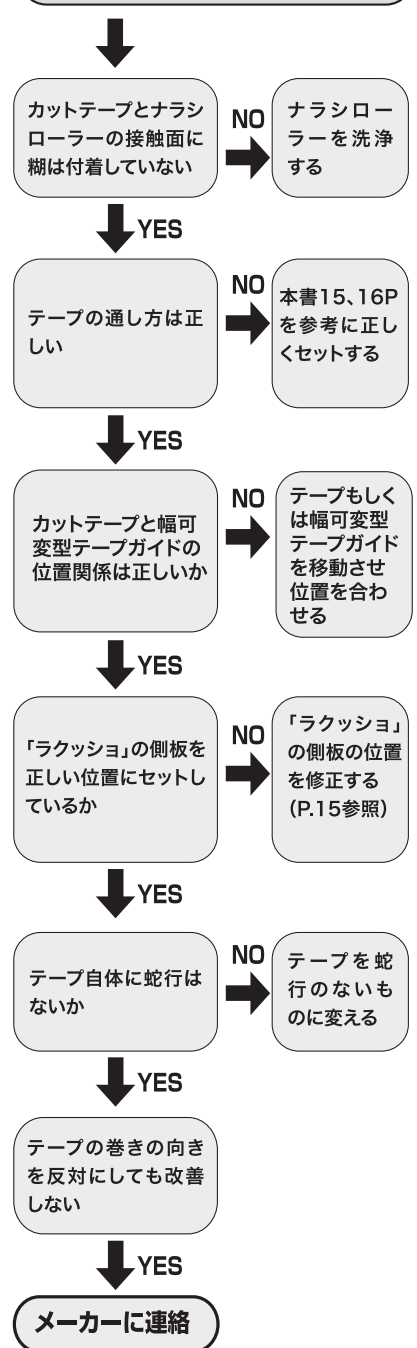
△注意

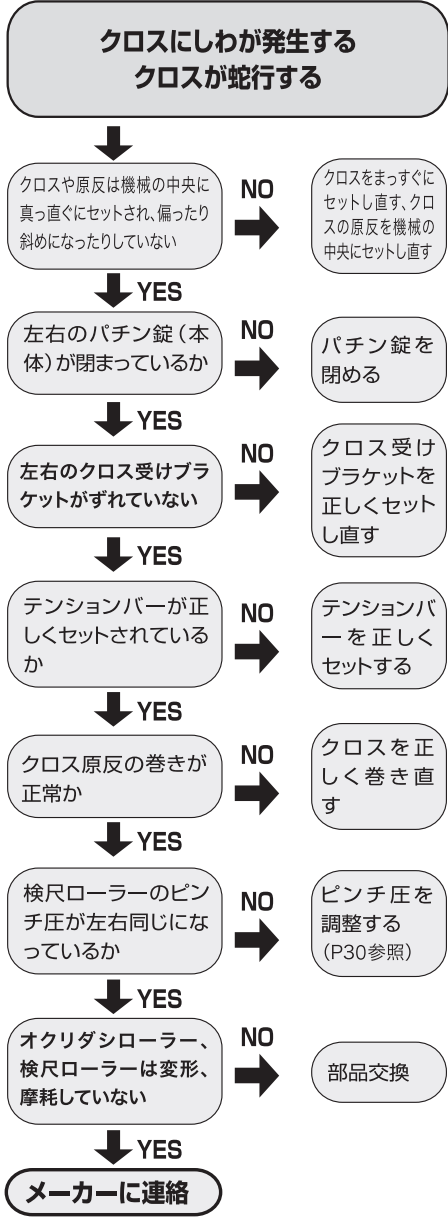
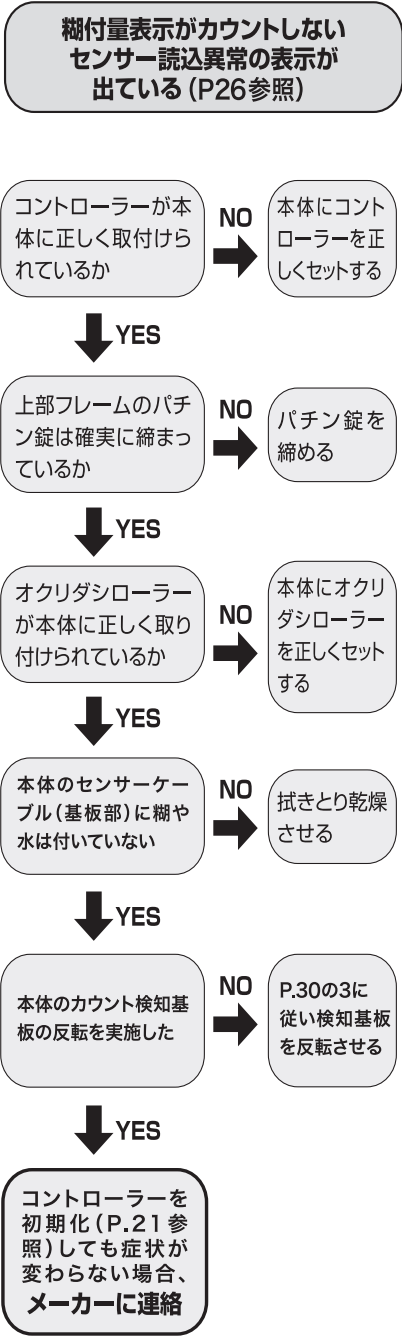
電圧低下、電圧変動、ノイズ等によりコントローラーが正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

モーターが動かない



カットテープが蛇行するだぶつく





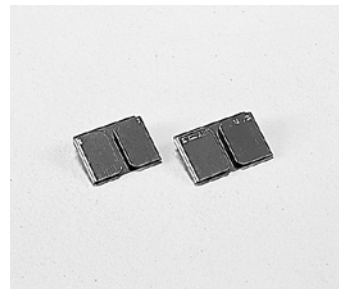


404-955 NEWコントローラ収納ボックス
※中仕切り付の高強度コントローラ収納ボックス

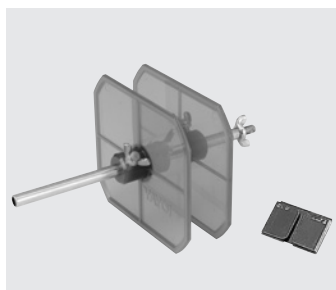
※コントローラや付属品の収納、運搬に最適です。



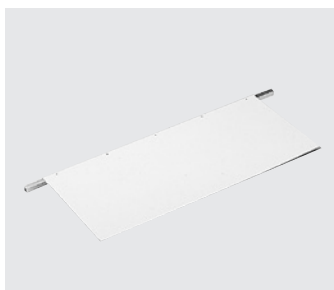
400-702
カットテープ取り付けキット“ラクシヨ”



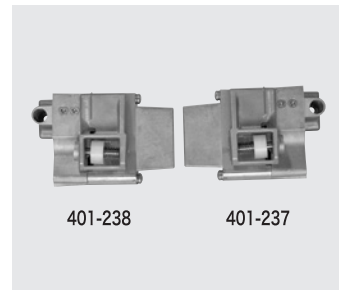
408-670 テープガイド38mm巾
408-671 テープガイド45mm巾



400-550
ワンタッチカットテープ取付キットQN



405-806 クロス受け板



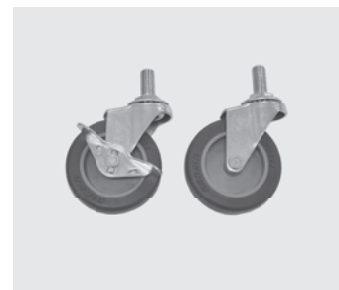
401-237
カッターボックスセット(左)・SCリサイクル
401-238
カッターボックスセット(右)・SCリサイクル



316-524 PEカバーシート(3枚入)
※糊付機の本体を覆うPEカバーシート
です。



404-918 NEWカバーシート
※現場のほこりをかぶらず、糊の乾燥防止に
もなります。



408-642 φ75mmキャスター(ストッパー有)
408-643 φ75mmキャスター(ストッパー無)
※薄型スパナ(19×21mm)を使用し、
標準キャスター(φ100mm)と交換できます。

●本体

(本体カバー、クロス芯棒、テンションバー、付属品の重量は含んでおりません)

質 量	24.8kg(本体部17.6kg 脚部7.2kg)
寸 法	全幅 1,180mm(コントローラ装着時 1,283mm)
	奥行 400mm(本体部 255mm)
	全高 850mm(脚折り畳み時 423mm)
有効糊付幅	1,010mm
糊タンク容量	約12.5kg

●スリッター

質 量	3.0kg
寸 法	全幅 1,160mm
	奥行 115mm
	全高 130mm
有効裁断幅	760~970mm

●コントローラー

質 量	2.9kg
電 源	AC100V 50Hz/60Hz
出 力	33W (最大180W)
消費電力	220W
糊付スピード	4~20m/分
使用温度範囲	0~40°C

※製品内容・仕様は改良等のため、予告なしに変更することがありますので、
予めご了承ください。



本 社 〒939 - 1272 富山県高岡市下麻生4649 TEL(0766)36-2800(代)

フリーダイヤル：0120-303-841